

# 令和7年度佐伯市学力定着状況調査 結果総括

令和8年2月  
佐伯市教育委員会

## 【用語解説】

◇目標値…学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合。

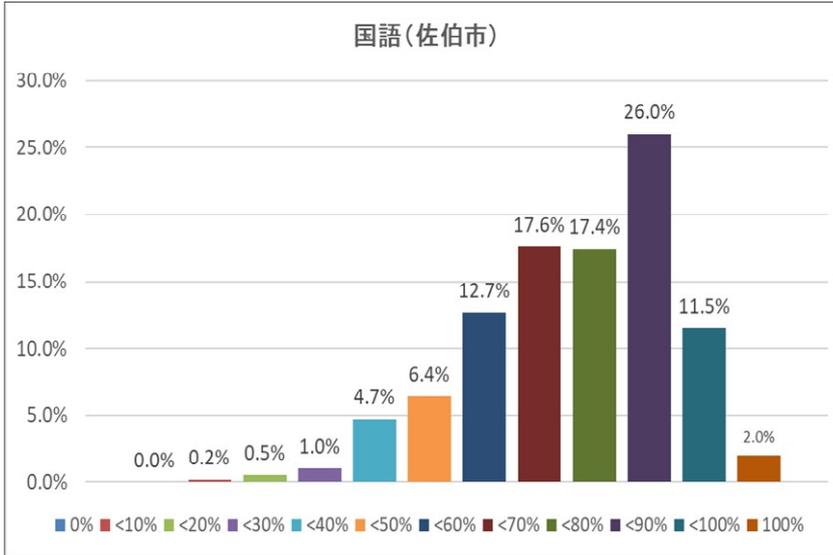
◇正答率…個々の設問について用いる場合は、その設問に正答した児童生徒の割合。

※教科総合・領域・観点などにおけるクラス・学年などの集団データとして用いる場合は、対象となる全設問におけるその集団の正答率の平均値。

※各学年ごとの結果総括において、全国平均を超えた佐伯市の数値には  を施しています。

<小学校4年>

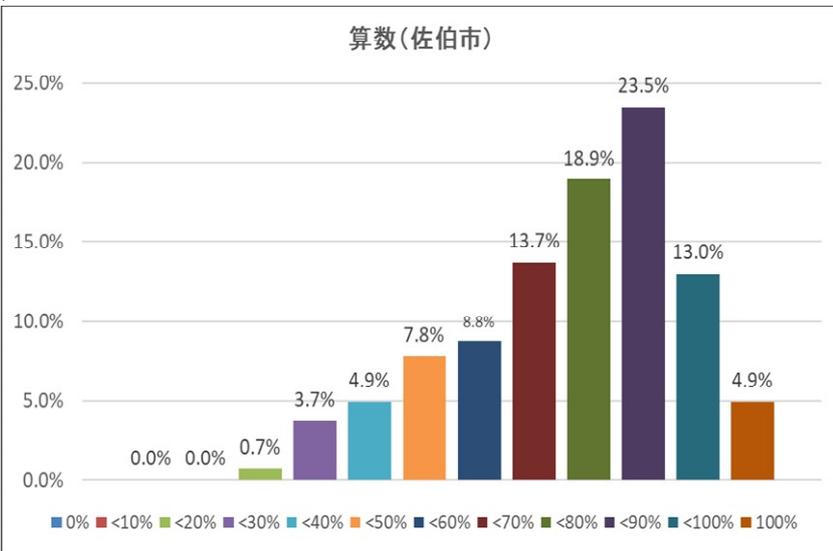
国語



【平均正答率】  
佐伯市 71.1  
全国 70.4

(国語)  
 ∠90%(80~89%)の層が26%と最も多く、ついで∠70%、∠80%の層が多くなっています。基礎基本が定着していると思われませんが、応用問題に苦戦をする層が生まれつつあることが伺えます。  
 ∠40%以下の層が少なくなっています。

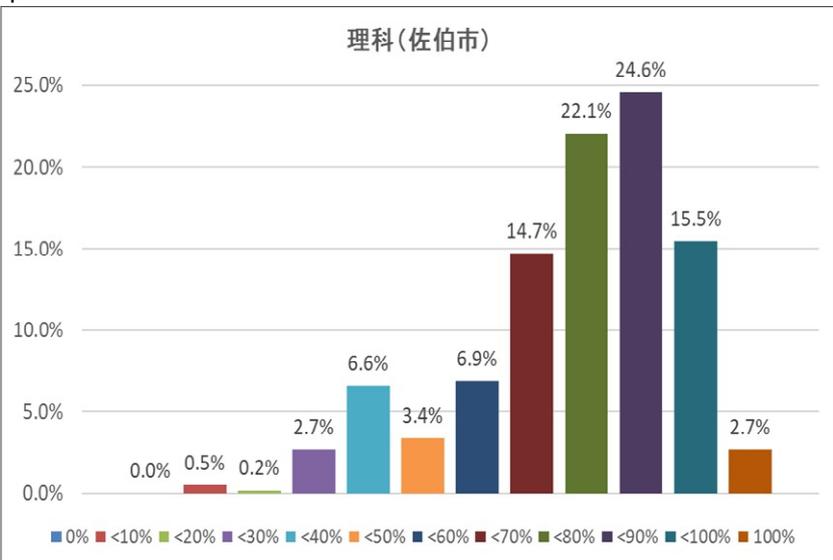
算数



【平均正答率】  
佐伯市 72.0  
全国 65.7

(算数)  
 ∠90%(80~89%)の層が23.5%と最も多く、ついで∠80%、∠70%の層が多くなっています。80%以上が41.4%となっており、基礎基本の定着ができていていることが伺えます。  
 ∠40%以下の下位層が、少なくなっています。

理科

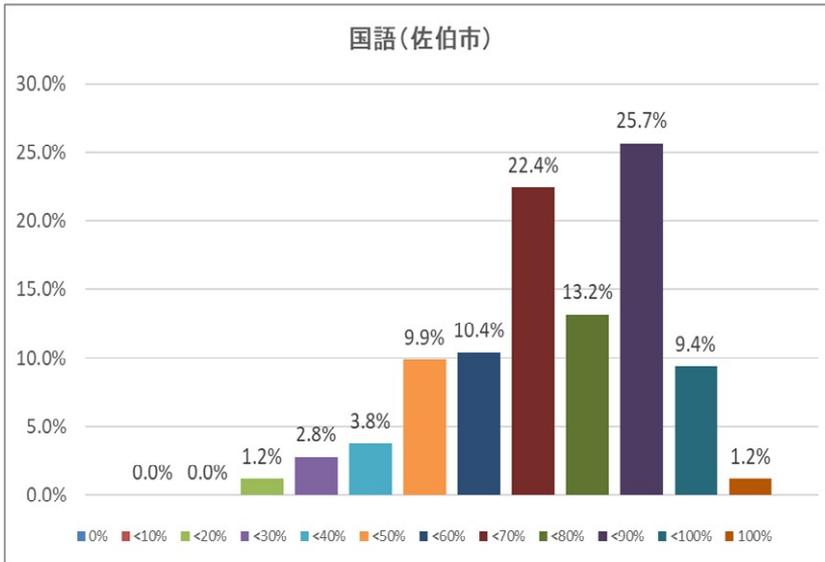


【平均正答率】  
佐伯市 72.9  
全国 70.1

(理科)  
 ∠90%(80~89%)の層が24.6%と最も多く、ついで∠80%、∠90%の層が多くなっている。  
 ∠40%が∠50%より多くなっていることから、特定の分野の定着に配慮が必要な層が伺えます。

<中学校1年>

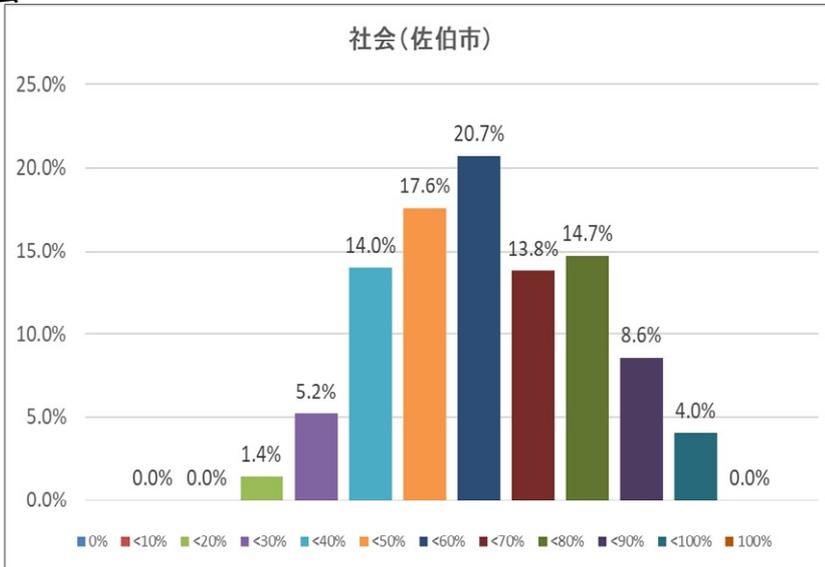
国語



【平均正答率】  
佐伯市 67.7  
全国 63.0

(国語)  
 ∠90%(80~89%)の層が25.7%と最も多く、ついで∠70%、∠80%の層が多くなっている。∠70%が22.4%であり、あと一歩で上位になる層が多くなっています。  
 ∠20%以下が1.2%と極めて低くなっており、全体の底上げができていないことが伺えます。

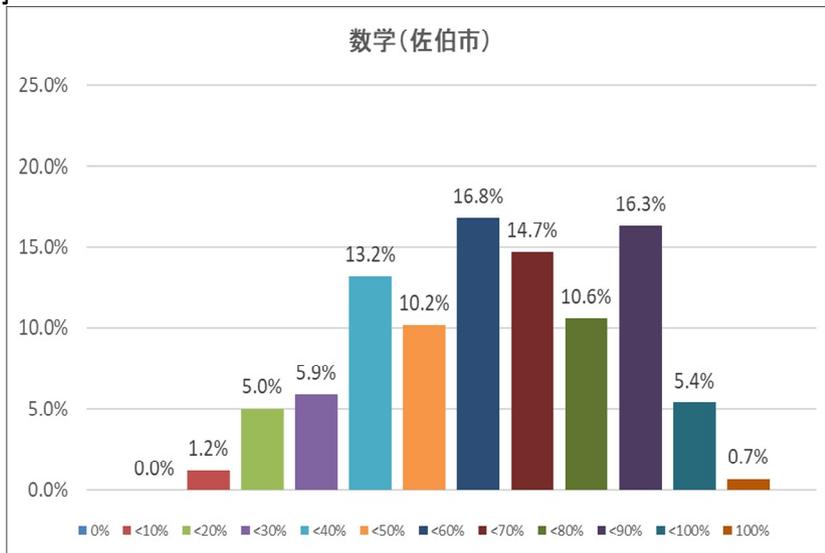
社会



【平均正答率】  
佐伯市 55.4  
全国 55.9

(社会)  
 ∠60%(50~59%)の層が20.7%と最も多く、ついで∠50%、∠80%の層が多くなっています。  
 ∠40%以下の下位層への基礎基本に係る定着の取組、中位層の底上げにつながる取組が必要です。

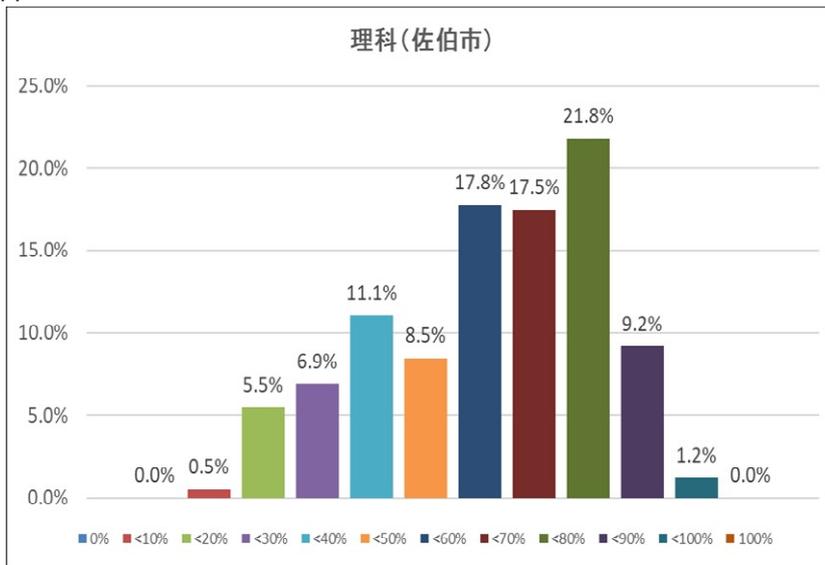
数学



【平均正答率】  
佐伯市 57.7  
全国 55.2

(数学)  
 ∠60%(50~59%)の層と∠90%(80~89%)の層と2つの山が存在しており、二極化になっています。  
 ∠40%以下の層が25.3%と多くなっています。数学への苦手意識が定着している層に対する取組の工夫が急務です。

## 理科



### 【平均正答率】

佐伯市 56.6

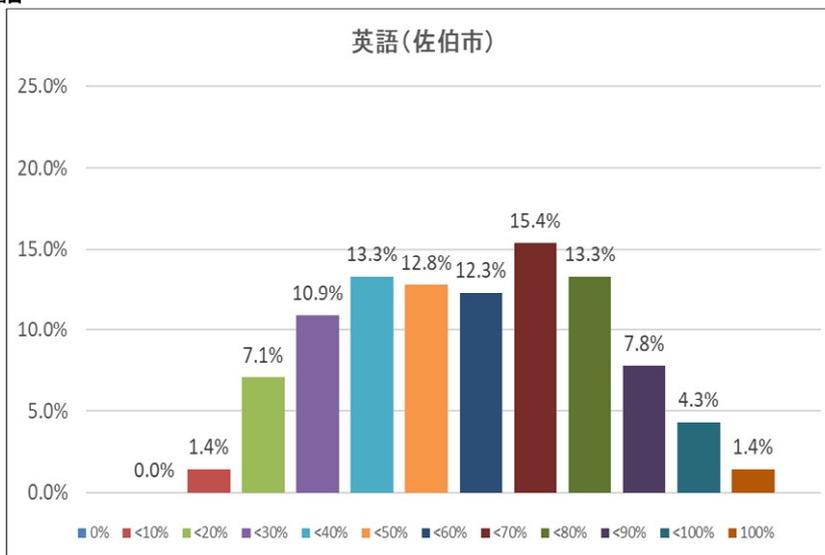
全国 57.6

### (理科)

∠80%(70~79%)の層が21.8%と最も多く、ついで∠60%、∠70%の中位層が多くなっています。基礎基本は定着していることが伺えます。

∠40%以下の層が24%と多いですので、どの分野に躓いているのか分析が必要です。

## 英語



### 【平均正答率】

佐伯市 53.0

全国 51.9

### (英語)

∠70%(60~69%)の層が最も多いですが、∠40%~∠80%の層が横ばいに近い状況になっています。

∠40%以下の層が32.7%と特に多いです。小中接続期における取組の検証を行い、英語への苦手意識が定着している層に対する取組の工夫が急務です。

令和7年度佐伯市学力定着状況調査結果総括〈小学校4年〉

国語				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均
教科の正答率	全体	71.1	68.8	70.4	問題の内容別正答率	話し合いの内容を読み取る	84.1	80.0	84.1	
	基礎	75.4	72.9	75.0		漢字を読む	94.4	90.0	89.3	
	活用	63.0	61.1	61.1		漢字を書く	58.8	65.0	66.0	
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	78.4	76.7	78.2		言葉の学習	78.2	71.0	75.9	
	情報の扱い方	68.4	60.0	70.0		物語の内容を読み取る	62.2	65.0	62.4	
	我が国の言語文化	76.7	70.0	71.3		説明文の内容を読み取る	60.6	58.3	61.2	
	話こと・聞くこと	64.1	66.0	63.4		活動をふり返って話し合う	34.1	45.0	32.2	
	書くこと	77.1	67.5	74.2		文章を書く	77.1	67.5	74.2	
	読むこと	61.4	61.7	61.8						

**＜結果概況＞**  
 ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。  
 ○領域別正答率は、「情報の扱い方」と「読むこと」の2領域において全国平均を下回った。

**＜課題と対策＞**  
 問題の内容別に全国平均と比較すると、全国平均を下回ったものうち「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」では、有意差は無くほぼ同等であることがわかる。また、「漢字を書く」問題についても、3問中2問正答したか否かの違いであることから、全国と同等レベルと捉えてもよいと思われる。  
 以上のことから、国語科においては、すべての学習内容・学習領域において全国レベルであるといえる。  
 しかし、領域又は内容別正答率において学校間の開き(最高値と最低値)に目を向けると、50ポイント以上の隔たりが認められる項目が「情報の取扱いに関する事項」、「書くこと」、「説明文の内容を読み取る」、「文章を書く」の2領域2内容であることがわかる。この2領域2内容に関する事項において、学校間格差が際立っており、その是正を図ることが本市の課題でもある。

算数				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均
教科の正答率	全体	72.0	64.1	65.7	問題の内容別正答率	億と兆・概数の表し方	82.9	75.0	78.1	
	基礎	73.3	66.1	66.7		わり算	63.7	55.0	54.5	
	活用	69.6	60.5	63.9		小数	72.4	63.0	66.7	
領域別正答率	数と計算	72.8	66.0	67.0		計算のきまり	65.8	66.7	63.2	
	図形	70.2	61.7	62.9		垂直・平行と四角形	67.8	56.7	58.9	
	変化と関係	76.1	70.0	69.5		角の大きさ	72.5	66.7	66.8	
	データの活用	70.3	56.7	62.7		簡単な場合についての割合	76.1	70.0	69.5	
						折れ線グラフ	70.3	56.7	62.7	

**＜結果概況＞**  
 ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。  
 ○領域別正答率は、全領域で全国平均を上回った。

**＜課題と対策＞**  
 問題の内容別に全国平均と比較すると、大問題3(1)「5桁の整数を上から2桁の概数で表す」問題は、6.7ポイント下回った。日常で使う場面が少ないことが要因の1つと考えられる。また、上から2桁目を四捨五入した誤答が多く見られた。概数に表す際、どの位を四捨五入すればよいかを正しく理解させる必要がある。一方、概数の範囲については、数直線が問題に示されているためか全国平均を大きく上回る正答率であった。  
 図形の領域は、全体で7.3ポイント高くなっている。「ひし形の作図」は点がずれるなど惜しい誤答が多かった。操作活動の時間を十分に確保し、コンパスの使い方等、作図に慣れさせる必要がある。「折れ線グラフ」に関する問題は正答率が高く、理科など他教科でも学習する機会があるためと考えられる。ただ、グラフを正確に読み取れていない誤答もあることから、グラフを書く活動だけでなく、グラフの数値をとらえる、グラフの特徴を考えるなどの学習を充実させる必要がある。

理科				佐伯市	目標値	全国平均		佐伯市	目標値	全国平均
教科の正答率	全体	72.9	67.5	70.1	問題の内容別正答率	1年間の植物の成長	80.4	75.0	79.3	
	基礎	76.6	71.0	73.8		1年間の動物の様子	84.2	81.7	85.4	
	活用	63.6	58.8	60.6		天気の様子と気温	70.4	66.7	68.6	
領域別正答率	物質・エネルギー	61.1	55.6	57.7		電気のはたらき	53.5	48.3	49.8	
	生命・地球	77.6	72.3	75.0		動物の体のつくりと運動	74.2	65.0	67.9	
						月と星	82.3	77.0	79.4	
						物の体積と力	64.3	68.3	70.0	
						物の体積と温度	67.8	47.5	50.9	
						雨水の行方と地面の様子	70.8	65.0	66.6	

**＜結果概況＞**  
 ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。  
 ○領域別正答率は、「物質・エネルギー」「生命・地球」とともに全国平均を上回った。

**＜課題と対策＞**  
 問題の内容別に全国平均と比較すると、「1年間の動物の様子」「物の体積と力」の内容で全国平均を下回った。  
 大問8(3)「消火銃から水が勢いよく出る理由を説明する」問題の無解答率は15.2%、大問題10(2)②「水たまりの有無について、砂と土の粒の大きさと水のしみこみ方の関係をもとに説明する」問題の無解答率は14.3%であった。2つの問題とも、「～という理由で(根拠)、～になる(結論)」という型での説明が必要であるので、授業において、理科的専門用語を使って、根拠と結論を明らかにしながら自分の考えを書かせることを各領域において行うことが大切である。  
 また、大問4(2)②「乾電池のつなぎ方と車の動き方の関係について推測し、早く走るつなぎ方を作図する」問題の無解答率が16.7%と最も高かった。直列つなぎ、並列つなぎの回路図を書くことを丁寧に言う必要がある。

令和7年度佐伯市学力定着状況調査結果総括<中学校1年>

国語				佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	67.7	60.4	63.0	問題 の 内 容 別 正 答 率	話し合いの内容を聞き取る	64.8	61.7	64.6	<p>&lt;結果概況&gt; ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「情報の取扱い方」と「読むこと」で全国平均を下回ったが有意差は無い。</p> <p>&lt;課題と対策&gt; 問題の内容別に見ると、「文学的な文章の内容を読み取る」と「調べたことをもとにレポートを書く」において、全国平均を下回っているもののいずれも目標値を上回っており有意差もない。 しかし、大問題5(2)「描写をもとに登場人物の心情を捉える」問題では、全国平均を5.8ポイント下回っており、「登場人物の心情について、描写を基に捉える」ことが難しいことがわかる。これは、昨年度と同様の傾向で、選択問題であるにもかかわらず、約半数の生徒が正答に至らないという実態を国語科として重く受け止める必要がある。引き続き、①言葉の奥にある作者や主人公の気持ちに思いを馳せそれを伝え合う活動、②朝読書などゆったりと読み浸る活動、③演劇的手法を取り入れた表現活動(心情表現)等を位置づけながら、小学校低学年のうちから経験的に身に付けていく必要がある。 特筆すべきは、大問7「考えが伝わるように工夫して書く」問題において、全国平均を24.7ポイント上回っているという点である。ここ数年来、大幅に上回る傾向にあることから、長年にわたって本市が注力してきた「複数の条件を満たしながら文章を書く力」を育成する取組が実を結びつつあるといえる。</p>		
	基礎	72.9	65.3	68.3		漢字を読む	95.9	88.3	95.2			
	活用	56.8	50.0	51.8		漢字を書く	59.7	55.0	55.4			
領域 別 正 答 率	言葉の特色や使い 方	76.0	69.4	72.3	文法・語句に関する事項	70.4	63.3	64.8				
	情報の扱い方	81.1	80.0	84.6	説明的な文章の内容を読み取る	48.2	45.0	47.9				
	我が国の言語文化	70.3	65.0	68.2	文学的な文章の内容を読み取る	60.2	60.0	63.8				
	話すこと・聞くこと	64.8	61.7	64.6	調べたことをもとにレポートを書く	65.3	63.3	66.7				
	書くこと	69.1	51.7	52.7	文章を書く	74.9	50.0	50.2				
読むこと	54.2	52.5	55.8									
社会				佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	55.4	55.2	55.9	問題 の 内 容 別 正 答 率	世界の姿	61.3	63.8	66.3	<p>&lt;結果概況&gt; ○教科の正答率は、基礎が全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「地理」「歴史」とともに全国平均を下回った。</p> <p>&lt;課題と対策&gt; 問題の内容別に全国平均と比較すると、「日本の姿」「世界各地の人々の生活と環境」「古墳時代まで」の3つの内容で全国平均を上回った。 地理領域の大問2(1)「日本の端についての理解を問う」問題では、与那国島が最西端であること、西ほど日の出の時間が遅くなることとの関連性をつかめていない解答が多くあった。また、大問4(2)「インドの農業の特色を複数の資料から読み取る」問題では、年降水量の分布図を誤って読み取る解答が5割を超えていた。基礎的な知識・技能を関連づけて理解させる取組が必要である。 歴史領域の大問6(6)「撰閣政治について資料を基に考察する」問題では、資料の読み取りに加え、選択肢の記述内容の丁寧な精査が不十分な解答が見られた。大問7(3)「天平文化について資料をもとに考察、表現する」問題では無解答17.3%、題意に沿った解答になっていない誤答が34.2%となっている。また「資料から読み取れる内容にふれる」「日本」という語句を用いる」という条件を満たしていない解答も25.4%と多い。出題の内容を把握し、解答に必要な情報を取り出し、取り出した情報をもとに表現させる場面を意図的に設定していく取組が大切である。</p>		
	基礎	59.9	59.0	59.2		日本の姿	41.2	45.0	39.2			
	活用	44.8	46.1	48.3		世界各地の人々の生活と環境	57.6	52.5	55.5			
領域 別 正 答 率	地理	52.0	53.3	53.1	世界の諸地域	45.1	50.0	47.9				
	歴史	58.7	57.0	58.8	古墳時代まで	73.5	67.1	69.9				
					飛鳥時代～平安時代	45.8	48.1	49.0				
数学				佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	57.7	55.4	55.2	問題 の 内 容 別 正 答 率	正の数・負の数	72.2	65.0	66.1	<p>&lt;結果概況&gt; ○教科の正答率は、基礎が全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「数と式」「関数」の領域で全国平均を上回った。</p> <p>&lt;課題と対策&gt; 問題の内容別に全国平均と比較すると、「1次方程式」の内容で全国平均を下回った。 大問題6「1次方程式①の式から②の式へ変形した理由を選ぶ」問題は、正答率が全国平均を6.2ポイント下回った。選択肢の文章が似通っており、よく読まずに-6という数値のみを見て解答したと推察する。大問題16(2)「事柄が成り立たない理由を、数学的表現を用いて説明する」問題は、題意を理解して判断し、その理由を説明するという複数の手順を踏んだ思考を要したためか、全国平均を5.2ポイント下回った。授業の中で、自分の考えを文章で記述すること、自分の考えを説明し合う場の設定が重要である。 大問題7(2)、大問題8は、計算問題であるが無解答率が15%を超えた。分数の1次方程式では公倍数が見つけれなかったこと、比式については整数倍できなかったことがその要因であると推察される。スキルタイム等を利用し、場合によっては小学校の学習内容を復習するなど個に応じた方法で基礎基本の定着をはかる必要がある。</p>		
	基礎	62.9	58.8	59.7		文字式	66.8	58.8	60.6			
	活用	40.3	44.2	40.5		1次方程式	50.9	51.7	51.8			
領域 別 正 答 率	数と式	63.4	58.8	59.8	比例・反比例	46.8	48.9	46.7				
	関数	46.8	48.9	46.7								
理科				佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	56.6	56.6	57.6	問題 の 内 容 別 正 答 率	植物の分類	72.4	69.2	73.9	<p>&lt;結果概況&gt; ○教科の正答率は、活用が全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、生命の領域で全国平均を上回った。</p> <p>&lt;課題と対策&gt; 問題の内容別に全国平均と比較すると、多くの領域で全国平均を下回った「期待の性質」は、全国平均より9.1ポイント下回っている。 「気体の性質」の内容で、大問題4(3)「アンモニアの性質について説明する」問題の無解答率が15.6%、大問題2(2)「被子植物の特徴について説明する」問題の無解答率が10.7%であった。2つの問題とも理由を説明する問題であるが、原因と結果が結びついていない解答が多く見られた。また、大問題7(2)「立方体のガラスに入射した光が外に出ていくときの光の道筋を作図する」問題の正答率が12.8%であった。屈折の法則を正しく適用していない解答が多く見られた。 条件を踏まえて自分の考えを書く活動や作図をする学習活動を充実させながら、条件に適した解答ができていくか一人ひとりを見取り、個に応じた指導を行うことが大切である。</p>		
	基礎	57.0	57.8	58.9		動物の分類	71.5	63.8	69.0			
	活用	55.8	54.5	55.4		身の回りの物質とその性質	60.3	61.7	62.8			
領域 別 正 答 率	エネルギー	40.3	43.8	40.5	気体の性質	43.3	51.7	52.4				
	粒子	50.2	52.9	52.3	水溶液の性質	47.0	51.3	50.7				
	生命	72.1	67.0	71.9	物質の状態変化	51.1	48.8	46.0				
				光の性質	40.3	43.8	40.5					
英語				佐伯市			目標値			全国平均		
教科 の 正 答 率	全体	53.0	52.4	51.9	問題 の 内 容 別 正 答 率	リスニング(内容理解)	65.0	61.7	63.9	<p>&lt;結果概況&gt; ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「読むこと」「書くこと」の2領域で全国平均を上回った。</p> <p>&lt;課題と対策&gt; 問題の内容別に全国平均と比較すると、「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」において9ポイントの差があった。また、「長文の読み取り」においても2.5ポイント下回った。 問題別にみると、「対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答える」問題は、正答率が9.5%、無解答率が34.8%であった。本問はリスニング力に加え、適切な文法を選択して英文を構成する力も求められる技能統合型の設問であり、難易度が高い。授業の導入時にSmall Talkを行い、聞き取ったことに対して文で答える活動を継続して行うことが大切である。また、「聞くこと」の領域での言語活動を設定し、必要な情報を問う発問をしたり、短い英文を聞き取ったキーワードをもとに英文を再構築するリテリングの活動を行ったりしながら、聞き取った情報をライティングにつなげる指導を充実させることが大切である。さらに、日常的なライティング指導においても、語順を意識した指導を徹底する必要がある。 「長文の読み取り」においては、「スピーチを読み、代名詞の内容を理解しているか」を問う問題の正答率が全国平均に比べて6ポイント下回った。また、「スピーチを読み、その要点を捉えているか」を問う問題の正答率も4.9ポイント下回った。キーワードとなる単語や筆者の主張に線を引かせることや、文章の意味の塊で区切って読み「誰が、何をした」を表現させること等を繰り返すこと等、英文の内容を正確に捉えさせることが大切である。</p>		
	基礎	57.6	57.1	57.1		リスニング(対話文の応答)	41.9	45.0	42.3			
	活用	43.4	42.5	41.1		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	54.5	60.0	63.5			
領域 別 正 答 率	聞くこと	52.2	53.1	53.1	語形・語法の知識・理解	58.9	67.5	56.9				
	読むこと	57.9	58.6	56.7	語彙の知識・理解	67.9	62.5	65.1				
	書くこと	46.3	42.2	43.5	さまざまな英文の読み取り	45.9	42.5	42.8				
					長文の読み取り	63.9	63.8	66.4				
					単語の並べ替えによる英作文	54.6	50.0	53.9				
				場面に応じて書く英作文	34.0	32.5	32.6					
				3文以上の英作文	43.4	38.3	37.0					